

ひともトキも



- 02 董寨順化ケージ竣工式典開催
- 04 長さ100mのトキ絵巻に挑戦!
- 04 寧陝県寨溝親子自然体験ツアー
- 06 人とトキのものがたり「トキの教訓」

人とトキのものがたり

董寨自然保護区内の有機茶畑



人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト

トキ野生復帰に向けた準備が進む董寨自然保護区で、現在トキが順化訓練を行っているケージは日本大使館草の根無償資金協力とプロジェクトが協力して支援し、整備したものです。この度、5月30日にケージの竣工式典（正式には董寨国家級自然保護区トキ順化ケージ竣工・河南省羅山県生活環境改善・自然保護草の根無償資金協力事業完了式典）を開催しました。

式典には、日本から環境省より亀澤課長および柳谷係長、日本大使館から岡崎一等書記官、JICA中華人民共和国事務所から宮崎次長および林担当が参加。中国側からは国家林業局保護司章萍副司長、河南省林業庁張繼敬副庁長ほか地元幹部、またプロジェクト中間評価調査団のメンバーも参加し、地域の住民や日中双方の報道関係者も含め、盛大な式典となりました。荒田保護ステーションの敷地で出席者による挨拶の後、ケージ前で除幕が行われ、心配された天気も予報に反して雨は降らずに無事終えることができました。

この式典の様については、中国国内の各メディアで報道されただけでなく、日本においても新聞、テレビ、インターネット上のニュース等で報道されました。



董寨順化ケージ竣工式典開催

日中の関係者が多数参加



順化訓練中のトキ

順化ケージでは現在、34羽のトキが順化訓練を行っています。植栽された木でねぐらをとリ、流れや池で餌を探したり、旋回しながら長い時間飛翔することもできるようになるなど、放鳥に向けた訓練は順調に進んでいます。



順化ケージ内の池で餌を探すトキ

日本から戻ったトキ

董寨自然保護区で飼育されているトキは、北京動物園から移動されたトキ4羽と2007年に日本から返還された13羽のトキから繁殖したものです。これらのトキからは毎年多くのヒナが誕生しており、自然繁殖に取り組んでいるペアもいます。



日本から返還されたトキ(奥)から今年生まれた幼鳥(手前)

5月中旬から下旬にかけて、プロジェクトの中間評価が行われ、PDM（プロジェクト概要表）の見直しやプロジェクト運営に関する提言が行われました。

中間評価は日中の合同評価団により実施されました。日本側はJICA本部長谷川国際協力専門員を団長とする4名、中国側は国家林業局国際合作プロジェクトセンターの劉立軍副主任を団長に、プロジェクト内外の行政官や専門家5名の計9名です。

まず、日本側の評価専門家が先行して各サイトを訪問し関連情報の収集・とりまとめを行い、その後5月22日に北京で日本側チームと中国側チームがドッキングし合同の作業が開始されました。評価団は、国家林業局、プロジェクト事務局（全国鳥類バンディング

プロジェクト中間評価 第3回JCC

センター）、陝西省林業庁、漢中トキ自然保護区管理局及び寧陝県林業局を訪れ、意見交換やサイト現地調査を実施したあと、西安で合同検討会を開催。5月30日河南省鄭州で開催された第3回プロジェクト合同運営委員会（JCC）においてPDMと評価報告書の案が審議され、最終的に承認されました。

今回の評価では、PDMの大幅な改定が行われました。特に、成果やプロジェクト目標に対して、カウンターパートの能力向上、関係機関の連携強化、地方政府の政策への反映などの観点の指標が新たに設定されるとともに、サ

イト別の指標も追加されました。

また、今後のプロジェクト運営の進め方に関し、各サイトの到達目標の明確化と重点的な投入、提供資機材の運用管理状況のモニタリング、プロジェクト活動状況の報告強化と共有などの提言が行われました。

JCCには、国家林業局国際合作司の金普春副司長（議長）、保護司の韋萍副司長、河南省、陝西省の林業庁副庁長、JICA中国事務所宮崎次長、大使館岡崎書記官他が出席、金議長はこれまでの成果を評価するとともに、今後に向けてプロジェクト管理の強化、広報の重視などを提案しました。

なお、評価団員は5月29日董寨自然保護区で実施されたトキ順化ケージ竣工式にも参加しました。



両国代表による評価団報告書の署名



金普春議長のあいさつ

プロジェクト紹介バナースタンド

トキの姿とともにプロジェクトの各活動をイラストで分かりやすく紹介するバナースタンドを制作しました。ひときわ目を引く手描きの看板に、大人から子どもまで多くの人が立ち止まって見てくれるなど、野外のイベントなどで大いに活躍しています。



バンディング
ステッカー

小池さんの絵によるこのステッカーは、“鳥類保護”を身近に意識してもらいながらバンディング（足環の装着）について広報するため、全国鳥類バンディングセンターが作製したものです。選ばれたのは、中国で初めてバンディングが行われたインドガンと美しい鳥としてよく知られているミヤマホオジロ。バンディング研修会などさまざまな場での普及啓発に活用していきます。
(全国鳥類バンディングセンター 王毅花)

Pickup

春夏秋冬の4種類揃ったしおりがトキグッズに新しく仲間入り。帽子をかぶったり、サングラスをかけたりと楽しそうなたきの絵が描かれたしおりは、子どもたちにトキを身近なものにしてくれることでしょう。



トキのしおり

長さ100mのトキ絵巻に挑戦!



絵巻に取り組む生徒たち

JICA朱鹮杯“我爱我家·我与朱鹮共成长”百米长卷绘画活动

寧陝県寨溝村 親子自然体験ツアー

4月5日の清明節の休日、西安の親子グループ30人あまりが寧陝県寨溝村を訪れ、山里の自然や暮らしを体験しました。当日は西安を朝8時過ぎに出発、中型バス2台で寧陝に向かい、12時過ぎに寨溝村入り口に到着しました。簡単なオリエンテーションのあと里道ハイキングを開始、寨溝の谷は菜の花が満開で、冬枯れの木々が萌え出し、田植えの準備がまわっていました。

途中、オタマジャクシを見つけたり、リンゴの花を観察したりしながら、1時間ほどで順化ケージに到着、昼食は隣の農家の庭先でとりました。食事の準備は農家をお願いしましたが、タケノコやドクダミなど山菜がたっぷりの素朴な田舎料理は好評で、大人も子どももしっかり満腹していました。

午後はまず、県林業局の田朝寧站长が寧陝の野生復帰の取り組みを紹介、その後飼育ケージに移動しトキを観察しました。ちょうど野生のトキも飛来、谷間を飛んでいく美しい姿を間近に見ることができました。観察の後は、近くの田んぼで昔ながらの^{すき}起こしの様子を見学、^{かかし}づくりで遊んだあと、最後に記念撮影、夕暮れ近くに村を後にしました。

今回の活動は、西安でアウトドア活動を組織しているNPOと合作し、NPO側が参加者を募集、プログラム運営もNPOのコーディネーターが指導しました。プロジェクトはバスチャーター料等を支援し、スタッフも家族で参加しました。

寨溝村に都会の子どもたちがやってくるのは初めてで、村民は若干とまどいもあったようですが、食事の提供のほかキラ



寨溝の谷を飛ぶトキの姿



5月15日、寧陝県寧陝小学校の1年生から6年生の生徒150名が参加して“トキと共に成長する”をテーマに、長さなんと100m!にもなる絵巻の制作活動を行いました。

開会式では寧陝林業局の田副局長、プロジェクトからは平野専門家、プロジェクトの中間レビューのメンバーとして参加した辻団員からの挨拶を受け、子ども達はやる気満々。…のはずが、いざ超ロングな絵巻を前にすると、ど

こから手をつけて良いか分からない様子。とまどう子どもたちも、先生方や専門家からのアドバイスを受け、気づけばあっという間に絵巻に夢中。あいにくの雨天で、少し肌寒かった寧陝ですが、子どもたちは元気そのもの。「暑い!」と額に汗をかきながら、必死に筆を動かしていました。

今回の活動は、1年生から6年生と一緒に一枚の絵を完成させる、という初の試みでしたが、上級生は下級生にトキの描き方を教えてあげたり、下級

生の描いた下書きに色付けしたりと、下級生のサポートに回っていました。中には色を作る人、大きなものを塗る人、細かいところを描く人、といったように自分の得意なことを活かしながら作業を分担し、共同作業をうまくこなしている生徒もいました。

このような活動が行事として持続し、トキの保全や人とトキが共生できる地域環境づくりの意識向上に繋がるよう、林業局や学校、先生方、プロジェクトで協力しながら、これからも取り組んでいく予定です。

西安の親子グループが寧陝の豊かな自然を満喫!

ゲ等の産品を購入した人もあり、都市との交流のメリットを実感する機会になったのではないかと思います。

西安では、ほんものの牛や鶏を知らない子どもも多く、参加した子供たちにとって今回の体験はインパクトがあったようです。また参加者全員が、西安にはないきれいな空気を絶賛していました。

今後も、トキ以外の鳥類や動植物の観察、農村の生活体験等も含め、できれば年間を通じて取組みを継続し、寒溝を自然体験のフィールドとして育てていきたいと考えています。



右上: ツアーに参加した子どもたち / 右中: みんなでかかしづくり / 右下: 農家での昼食
左: 寒溝の谷をハイキングしながらバードウォッチングも



「トキの教訓」

NPO法人日中朱鷺保護協会名誉会長

村本義雄

石川県羽咋市生まれ。能登半島でトキの調査、研究を行いながら、本州で最後まで生息したトキの保護に尽力した。1991年に中国を訪れてからは陝西省洋県のトキ保護活動にも取り組み、20年になる。



かつてアジアの空に普通に飛んでいたトキが、人間によって絶滅寸前に追い込まれた責任は重大である。60年も前になるが、食料難の時代トキは水田に入り、植えた苗を踏む害鳥だと射殺していた。

私はトキの生息地に生まれ、美しいトキを見て育ったせいか、野鳥が大好きな少年だった。1946年、3年ぶりに帰郷すると、トキは半減していた。トキについて調べると、1952年に国の特別天然物となった保護鳥だと分かった。その頃、石川県能登半島では8羽もいたのに図鑑には『石川県に生息していたトキは既に絶滅した』とあった。減少した原因は密猟のほか、人間にも危険な農薬の使用で、トキの餌になるカエル・ドジョウ・タニシ・昆虫類などが死んだ。加えて、営巣地域の樹木の伐採などの生息環境の破壊、近親交配などが要因だと思った。保護対策で密猟は防止できたが、農薬問題は行政と農家の補償問題もあって手の打ち様がなかった。1羽残った石川県能登半島のトキは1970年に捕獲し、近親交配を避ける対策として佐渡へ移したが、翌年死亡した。当時、佐渡では10羽生息していたトキは10年後に5羽に減少、1981年1月に佐渡で野生のトキ5羽を飼育することに

なって捕獲した。その瞬間、野生のトキが地球上から絶滅して、遂に夢や希望も消えてしまった。

ところが同年の5月、中国の陝西省の奥山で『トキ7羽が生息する』と報道で知った。この報道は真実か。学名『ニッポニア・ニッポン』と同種か。亜種ではないだろうか。私はトキ保護の情熱が蘇った。

情報によると、トキの生息地は未開放地域で、中国政府の特別許可が必要であった。特に研究者以外の民間人は、とても入れそうになかったが、それでもかつての日本の轍を踏んではならないと、生息地の環境が気になった。トキと共に暮らしている現地の農民と接して懇談し、支援をしたいとの希望が止まらなかった。

初めて中国へ訪ねるチャンスとなったのは、日本鳥類保護連盟の江蘇省の小学校での愛鳥教育の現状視察に同行した時であった。1991年には、羽咋市日中友好協会の西安市観光に同行し、能登(石川県)に生息したトキに関する著書2冊を、名刺がわりに陝西省野生動物保護協会へ送ってもらった。この本は自費出版で書店には無く、陝西省林業庁には蔵書されていなかった。学術研究者の本ではなく、実際トキと

共に暮らした人の著書で面白かったらしい。西安では観光に参加せず、陝西省林業庁で、トキが生息していた能登半島をもとに、生息した環境、営巣地、餌場、四季の行動範囲、移動の原因、絶滅した要因、密猟、農薬、化学肥料、環境破壊などについて詳しく説明した。日本語と中国語の通訳を経由した会話は、時間を要した。そして、この機会にトキ繁殖地の陝西省洋県で、トキ繁殖の共同研究をしたいと申し入れた。

念願がなつて、1993年から陝西省洋県を訪ねること20回になる。顧みれば、15年間、出張の度に林業庁の指示に従って行動した。トキ繁殖地の農村では、愛鳥教育を重視して、小学校の要望で教材の整備と講演の実施、教育備品の贈呈式もあった。農民との懇談では、生活道路の改修要請があつて現地を視察し、これを完成させた。傷病鳥の隔離施設の建設、不足していた孵卵器の整備、観察用のバイクなども贈呈した。ほかにトキ繁殖地の農村から特別に要望があつたのは、北京の国家林業局へ行き、政府資金援助を訴えるという依頼で、困惑した。陝西省野生動物保護協会の常務雲副秘書長の同行を頂き、西安空港を出発。北京空港で林業局の出迎えを受け、懇談した。



トキは人間に何を教え、何を語りかけているのか

左・右上：2013年3月、石川県羽咋市とき保育園での講演。右下：2001年、洋県花園小学校での講演。

私は農民から強い要望のあった事を伝えたが、当局は「陝西省は中国の一级動物のトキ・パンダ・キンシコウなどの生息地である。これらの動物が生息する農村環境は多く、トキだけに援助はできない」との返事であった。逆に、私に日本政府へのトキ保護への支援要請があった。私が、これまで中国政府が中国のトキ保護支援に協力してきたことを話すと、その支援額は研究費であって、別の機関に納められていると言う。仕方なくこの件について、日本の環境省に中国の要望と現状を伝えたが、無理だった。この話は、再三上京して結果的に外務省に要請し、日本国在中国大使館と陝西省林業庁が協議して、支援することで決着したことは忘れない。日本国政府に感謝したい。

また、さまざまな思い出として、春はトキ繁殖地の農村で牛を使つての田起こしや水田に入り田植えを手伝った。秋には、稲刈りや田畑での脱穀、二毛作の菜種の植え付けなどで喜ばれた。特に1998年春に授与された叙勲は、中国のトキ支援活動の功績であった。従つて、トキ保護に努力した中国の農民と関係者を代表した賞だと理解する。私は実物大の賞状と菊の御紋章付き木杯の写真を、陝西省林業庁に贈った。

ある時、私が陝西省洋県で体調を崩し、食欲もなく薬を飲んで治らないことがあった。仕方なく、自動車でも10時間の西安市の陝西病院へ緊急入院。この病院では、バス・トイレ・リモコン付き窓、医師が常時2人付く特別の個室で看病をいただいた。そして林業庁の庁長が生花持参で見舞いに来られ、ありがたく感謝した。帰国時の航空機内も特別室が用意してあり、敬服した。

誰からも頼まれもしないトキ保護は、命がけであった。生涯私に課せられた一大事業は、今まさに完成に近づいている。トキは、中国・日本にとっても国際保護鳥で、この鳥を救うことに努力するのは人間として当然の義務がある。

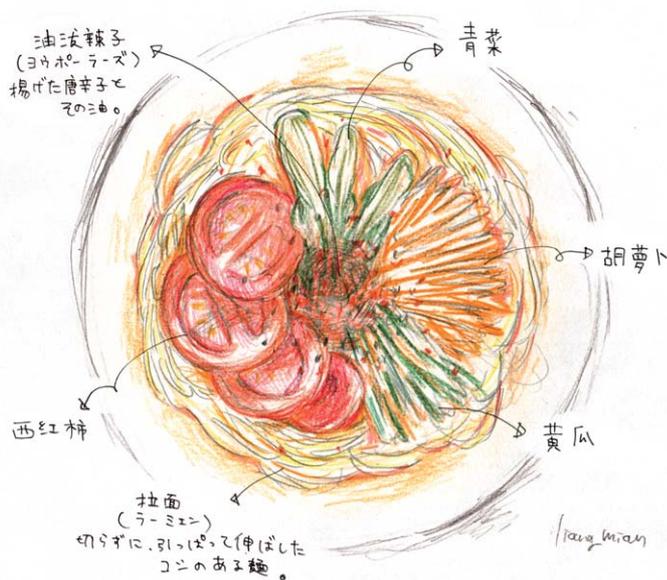
学名「ニッポニア・ニッポン」。日本を象徴する鳥名である。日本にとっては伝統文化の象徴でもある、20年ごとに行われる伊勢神宮の式年遷宮は、今年で第62回を迎えられる。その式年遷宮において調達される神宝にトキの尾羽2枚を用いた「須賀利御太刀」がある。第60回(1973年)、第61回(1993年)は、私が「能登のトキ」の繁殖羽と羽虫(ダニ)の5年間の研究で抜け落ちた羽毛を保存していた3881枚の中から規格に合った羽、特に色彩鮮明な羽を選んで伊勢神宮に奉納。今年第62回に用

いられる羽は、環境大臣の許可を受け、いしかわ動物園に飼育されているトキの抜け羽が、伊勢神宮に譲り渡された。日本の1300年来の伝統文化が、隣国の中国から天皇陛下に贈られた子孫のトキの羽を用いることで、千古の歴史が再び蘇った気がしている。

偉大なトキの種が、かつてエジプトでは「知恵の神」と崇められたと聞いたことがある。1999年に江沢民国家主席が国賓として来日した際、天皇陛下に中日友好の記念にと、トキのつがい2羽が贈られた。今年は、記念すべき日中平和友好条約35周年を祝福し、日本各地の空をトキが飛翔している。石川県能登半島にも、今年3月にメスのNo.04(通称「トキメキ」。2008年9月佐渡にて放鳥され、富山県黒部市に生息)が2回飛来して、連日報道されている。

トキは我々人間に何を教え、何を語りかけているのか—これ以上、生物の棲む環境を破壊しないで。かつての平和条約を肝に銘ずるよう—。友好の強い絆こそ、時間をかけてもトキが解決するだろう。(2013年4月4日、村本義雄氏寄稿)

涼麵 Liángmiàn 凉面



Xi'an Cool

涼しい面(麵)と書いて「リャンミエン」と読むこの麵は、日本でいうところの“冷やし中華”。夏になると中国各地で見かける涼麵は、地域によって味付けや具、麵の種類までもが違います。すっぱくて辛いものが好まれる西安では、黒酢が効いていることが特徴のひとつ。さらにシルクロードの出発点である西安らしいのが、今回ご紹介する回族的拉麵を使ったこの涼麵。

ラーメンの語源でもある拉麵(引っ張る麵)は名前の通り、包丁を使わずで引っ張って細くするコシのある麵です。茹でたてを水で一気に冷やし、更にコシが増した麵の上にトマト、きゅうり、にんじん、チンゲン菜など色とりどりの野菜を並べ、刻みにんにく、唐辛子、黒酢、塩などを混ぜた酸味のあるつゆと和えていただきます。

夏、中国で「我要涼面!」と言ってみてどんな“冷やし中華”が出てくるか、その土地の文化を味わってみるのも楽しいかもしれません。

(文・絵：小池真実)

JICA インターン研修生がトキ情報コーナーを訪問!

JICA 中華人民共和国事務所でのインターンシップ中の大学生、加藤さん、原さんと田中君の3人が7月1日にトキ情報コーナーを訪問しました。3人はJICA「黒河金盆ダム湖および上流域水環境管理向上プロジェクト」のセミナーへの参加にあわせ、西安へ。専門家からプロジェクト活動やトキの様子についてレクチャーを受けたほか、インターンシップ中にパンフレット作成の課題に取り組んでいる3人は、広報活動についても積極的に質問をしながら熱心に耳を傾けていました。



中国を代表するミニブログサービスで、中国版Twitterともいわれる微博(ウェイボー)。活動内容やトキについて紹介している当プロジェクトのアカウントのフォロワーは1500人を超えています。今後も微博を通じて広報を行っていきます! 📢

トキ情報コーナーのご案内

西安事務室にはトキに関する情報を提供する「トキ情報コーナー」を設置しています。訪問されたい方は事前にご連絡ください。興味ある方のお越しをお待ちしております。

● 9:00 ~ 17:00
 ☞ 土曜・日曜・中国の祝日を除く毎日

人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト

西安市蓮湖区労働南路296号民航大厦14F

TEL/FAX: +86-(0)29-88793312

<http://www.jica.go.jp/project/china/004>

日本側担当者: 平野貴寛

中国側担当者: 劉冬平



お断り

本誌は、プロジェクトの近況や情報を率直に読者に伝えることを目的としており、国際協力機構(JICA)の意見を代表するものではありません。

本誌「ひととトキも」に関する皆さまのご意見、ご感想をお聞かせください。

✉ toki.jica@hotmail.co.jp